

〔収穫祭 10月25日〕



収穫祭で食べる枝豆も自分たちでもいだ



バーベキューを食べながら今年の作業、体験を  
ふり返る。自分たちで作ったご飯は格別

#### 【参加者の主な声】

- ・田植え、稲刈り、脱穀は他でも経験する機会が多いけれど、田んぼの整備や草取りは本企画ならではのと思う。
- ・年間を通じての米作りなので、四季を感じながら毎回の田んぼの変化を楽しみながら、自分たちのお米への愛着が湧いてきます。
- ・みなさんに日本人の生活の原点である農業について、農家の仕事、お米や野菜がどのようにして実るか一度体験してほしいと思います。
- ・生産者が、「米を作っても、飯が食えない」と言う米価下落の状況が分かった。
- ・お米農家の厳しい現状を実感するようになった。
- ・お米の価格が下がっており農家が大変と知ったら、以前よりもお米・野菜を食べる量が増えました。

#### 【企画のまとめ】

##### (1) 取り組み状況

合計で延べ 328 人（1 回平均 29.8 人）の参加があり大きな事故も無く無事終了した。

6 月 7 日（土）は豪雨のため中止とした。そのこともあり「草取り」が十分行えず、特に 3 号田は最終的には雑草の中に稲が生えているような状況となり収量や品質・食味に影響した。

##### (2) 成果

###### ① 3 号田の開墾

###### ② 収穫量：1,140kg（19 俵） 昨年より 1 俵多い過去最高

- \* 田植え面積が増えたのにあまり収量が伸びない理由は、3 号田は水切れが悪いため十分草取りができず、結果近隣の水田の 6 割程度しか収穫できなかったこと、また 1, 2 号田も今年は草が多かったことが原因と思われる。

###### ③ 米価下落の中で生産者の厳しい状況の認識を深め、日本の農業や食料を支援する気持ちが高まった。



## [2]すいかコース (茨城県西産直センター)

### (1) 目的

普段なかなか体験できない果実（小玉すいか）の苗植えから収穫までの作業の一部を体験し、生育過程を学びながら、生産者のこだわりを実感する。

### (2) これまでの経過

昨年の「梨の栽培」企画は消費者の体験が難しかったことを踏まえ、今年は子どもを含め参加しやすいすいか（スマートボール）の栽培体験とした。

生産者の大久保さんは1カ月前からゆうがおの台にすいかを継ぎ、丈夫な苗を育ててくださった。

### (3) 日程と参加状況

すいかコース (3回)			参加人数					
日程	作業内容	収穫体験	総数	家族数	大人	子ども	小学生	未就学
5月11日(日)	定植	トマト	25	13	18	7	3	4
6月8日(日)	ワラ敷き	なす	25	14	15	10	5	5
7月26日(土)	収穫	とうもろこし、枝豆	28	14	18	10	5	5
参加延べ人数			78	41	51	27	13	14
登録人数			32	16	22	10	5	5

### [定植 5月11日]



すいかの指導・管理をしてくださった久保さん



畑にトラクターでマルチを掛ける



マルチに切れ目を入れ、みんなですいかの苗50本を植えた



マルチの両側に金属の枠を半円形に差し込む





ビニールを掛けた



風で飛ばないように紐を掛け、作業は終了

《花合わせ（受粉）は生産者の久保さんが行ってくれた。》



約2週間後だいぶつるが伸びた苗



すいかの雄花



すいかの雌花



雄花をたたんで雌花に受粉する



〔わら敷き 6月8日〕



当日はあいにくの雨だったが、生産者の久保さんが熱心に今のすいかの状況などについて説明してくれた



雨の中、前月に自分が植えたすいかなどを見て回った



定植後、1カ月が過ぎ、受精したすいかが少し大きくなっていた



昼食後、野菜ソムリエの青山さんより、すいかの栄養や歴史などについての話を聞く



後日、生産者の方が、晴れた日にワラを敷いてくれた



すいかの下には、病気や腐りを防ぐためにパットも敷いてくれた